

廃プラスチック油化システム 南アで実証試験、商業機販売も

CFP (福山)

合成樹脂加工販売、油化装置開発のCFP(福山市引野町5-11-4、福田奈美絵社長)は、特許出願中の「廃プラスチック油化システム」**Ⅱ写真Ⅱ**を南アフリカのケープタウンで実証試験する。1月に現地のAKURA社と油化装置メンテナンスサービス協定を結んだ。2016年に南アで商業

機の初受注を目標とし、合成樹脂の仕入れ販売を新たに始める計画。同国ヨハネスブルク、プレトリア、ダーバンなどでも商業機を販売し、5年後にはアフリカで売り上げ6億円を目指す。

油化システムは最大で1日8トンの廃プラから8キロワットの生成油を製造。材料はレジ袋などのポリエチレン、バケツ、車バンパーなどのポリプロピレン、発泡スチロール、食品容器などのポリスチレンが対象で、生成油はディーゼル(軽油)代替燃料として利用できる。低温固化しない。生成油1キロワットで4キロワットのディーゼル発電の利用も見込む。



実証試験は(独)国際協力機構(JICA)民間提案型普及・実証事業を活用。8月～16年1月に1日5000キロワットの廃プラから5000キロワットの生成油を製造し、製造能力や生成油成分、発電

などをテストする。南アでは年間130万トンの廃プラ排出があり、リサイクル率は13%にとどまる。年間排出量の7%分の廃プラ9万トンを9万キロワット(ドラム缶45万本分)を製造でき、油化装置47基分(約118億円)規模の市場があると試算。現地に駐在買事務所や法人の設立も計画する。

CFPは03年10月に設立。グループ会社に油化装置開発・運転のリサイクルエナジー、不動産管理のCFPプランニング、シンガポール、インドネシアの現地法人があり、14年9月期のグループ年商は約14億円。同従業員40人。